

[担当教員]

末包伸吾(教授) 中江哲(客員教授 / 武庫川女子大学) 浅井保(助教)

[Teaching Assistant]

丁子紘亘(A72) 千馬生吹(A72) 泉貴広(A72)

■課題概要

課題主旨：ニュー・ミュージアムを、神戸の都心・三宮に設計する。ニュー・ミュージアムという設定は、以下の2024年現在のアート・文化分野での鍵語・論点について、設計者が自覚的に応答することを要求するものである。各自、これらについて先行事例や関連論考など調査し考察し、教員・TAとの議論を経た上で、現代のミュージアム設計を進めていくことを期待している。これらの鍵語・論点に対して、否定的／肯定的な様々な態度があり得るが、考えない態度はあり得ない。

鍵語 (キーワード) リスト

- Site Specific 場所特定の、Contextual 文脈的
- Regionality 地域性、Locality ローカルリティ、Sense of Place 場所性
- Anti / Post White-Cube 反／脱ホワイトキューブ
- Thematic Curation テーマに基づくキュレーション、Project-Based プロジェクト・ベースド
- Casualty 日常性、Popularity 大衆性、Pop Culture ポップカルチャー、Subculture サブカルチャー
- Theatrical 演劇性、Performance パフォーマンス、Performativity 行為遂行性
- Physicality / Embodiment 身体性、Tactility 触覚性、Sensuousness 感覚性
- Audio-Visual オーディオ・ビジュアル、Media Mixture メディア複合
- Gender ジェンダー、Sexuality セクシュアリティ、Ethnicity エスニシティ、Nationality ナショナルリティ
- Post Imperialism ポスト帝国主義、Post Colonialism ポスト植民地主義、Anti-Racism 反レイシズム
- Diversity 多様性、Pluralism 多数性、Multi Culturalism 多文化的
- Participative 参加、Collaborative 協働、Collective 集団、Common(s) 共用／共有
- Ecology 生態学、Ethology 倫理学
- Sustainability 持続可能性、Regenerative 再生／回生 など

参考図書：

暮沢剛巳「拡張するキュレーション」、C. ビショップ「ラディカル・ミュゼオロジー」、「人工地獄」など

計画敷地は、左下図に示すとおり、南の「旧居留地 (明治維新前後の都市形成秩序)」と、北の「三宮センター街等 (第二次世界大戦後の都市形成秩序)」との、せめぎあい・軋轢が集約される区画であり、神戸の東西の中心軸「フラワーロード」に面している。フラワーロードとは明治4年(1871)までの「生田川河川敷」である。この生田川付け替えという大土木事業は、外国人居留地保全の観点から外圧によって進んだものだが、その後現在に至る神戸・三宮の都市構造を決定した。付け替えられた新生田川は昭和に入り一旦暗渠化されたが、その結果、阪神大水害(1938)の際に大氾濫を引き起こし、その後再び開渠となった。この氾濫では、三宮も1.5m超の浸水を被っている。「計画敷地」北東対面には阪神・淡路大震災(1995)で全壊し、その後1999年に再建を果たした「神戸国際会館」があり、その足元は地下鉄駅「三宮・花時計前(2001開業)」に向けてオープンカットされている。駅名の由来である「花時計」は市民有志の募金や拠金に基づき1957年に神戸市役所前に設置された戦災(神戸大空襲は1945年)復興と国際交流のシンボルである。花時計は市庁舎2号館建て替え工事に伴い、2019年に下記「東遊園地」内に移設された(敷地図は情報が古い)。フラワーロードを南下すれば、「慰霊と復興のモニュメント・1.17希望の灯り(2000設置)」があり、その西に広がる「東遊園地」は震災の犠牲者鎮魂・慰霊のために始まった神戸ルミナリエのメイン会場となる。「計画敷地」を西進すると、戊辰戦争中の神戸事件(1868)の舞台となった「三宮神社」がある。近年の動向としては、「都心・三宮再整備」構想のもとに、2016年より「計画敷地」北に接する「三宮中央通り」の歩道空間ではKOBEパークレットが運用されている。2020年には「計画敷地」西に「三宮中央通り地下駐車場」と地上を結ぶ屋外イベント会場「三宮ブラッツ(設計:畑友洋)」が新設された。2022年には、中央通りKOBEパークレットと三宮ブラッツは、エリアマネジメント社会実験の場となり、ポスト・コロナの都市屋外空間のあり方が模索されている。2028年には商業施設・市民交流施設とホテルを併設する新「市庁舎2号館」が開設する。このような、歴史的に錯綜・重層して、絶えず上書き更新されるコンテクストを読み解き、「神戸」というコンテクストのもとでの、ニュー・ミュージアムを設計してほしい。自らの設計もまた、コンテクストに描き込まれ得るといふ自覚をもって取り組んでもらいたい。

参考図書：

K. リンチ「時間の中の都市」、R. コールハウス「錯乱のニューヨーク」、D. ハイデン「場所の力 パブリック・ヒストリーとしての都市景観」など



■建物概要

面積規模：延べ床 6,000 ~ 8,000 m²程度。各自のプログラム設定によって、増減は自由とする。

階数：地上階については制限しない。地下階については、周辺の既存地下空間(地下鉄駅・通路・線路、商業施設、駐車場など)を前提として、それらとの接続方法や改変提案を考えること。なお、周辺地下駐車場を前提とするので、「計画敷地」内に来館者専用駐車場は設けない。


構造：原則としてRC、SRC、Sのラーメン構造とするが、自由な発想に基づいた、力学的合理性を有する新しい構造方式を考えてもよい。よく検討された大規模W造も可とする。いずれの場合でも、耐震・制震・免震のメカニズムや、安全・防災・避難に関する合理的観点を必ずもつこと。

プログラム：神戸市の文化の拠点となる都市型・公園型の美術館施設を想定している。テーマに基づく展覧会企画に応じて「作品」を借り入れる運営とし、企画は、様々な国内・海外のコレクションからの借り入れを想定する。長期借り入れの前提で、常設的に展示する特定の「作品」を想定して、特定の展示空間を用意してもよい。「搬入搬出・荷解き荷捌き・一時保管」のためのスペースは十分に確保し、セキュリティには慎重な配慮をすること。また、制作の場(「アトリエ」、「アート(アーティスト)・イン・レジデンス」)を設けて、ここでオリジナル・コレクションを創造していくことを想定してもよい。この場合はオリジナル「作品」の保管・収蔵について、よく検討すること。

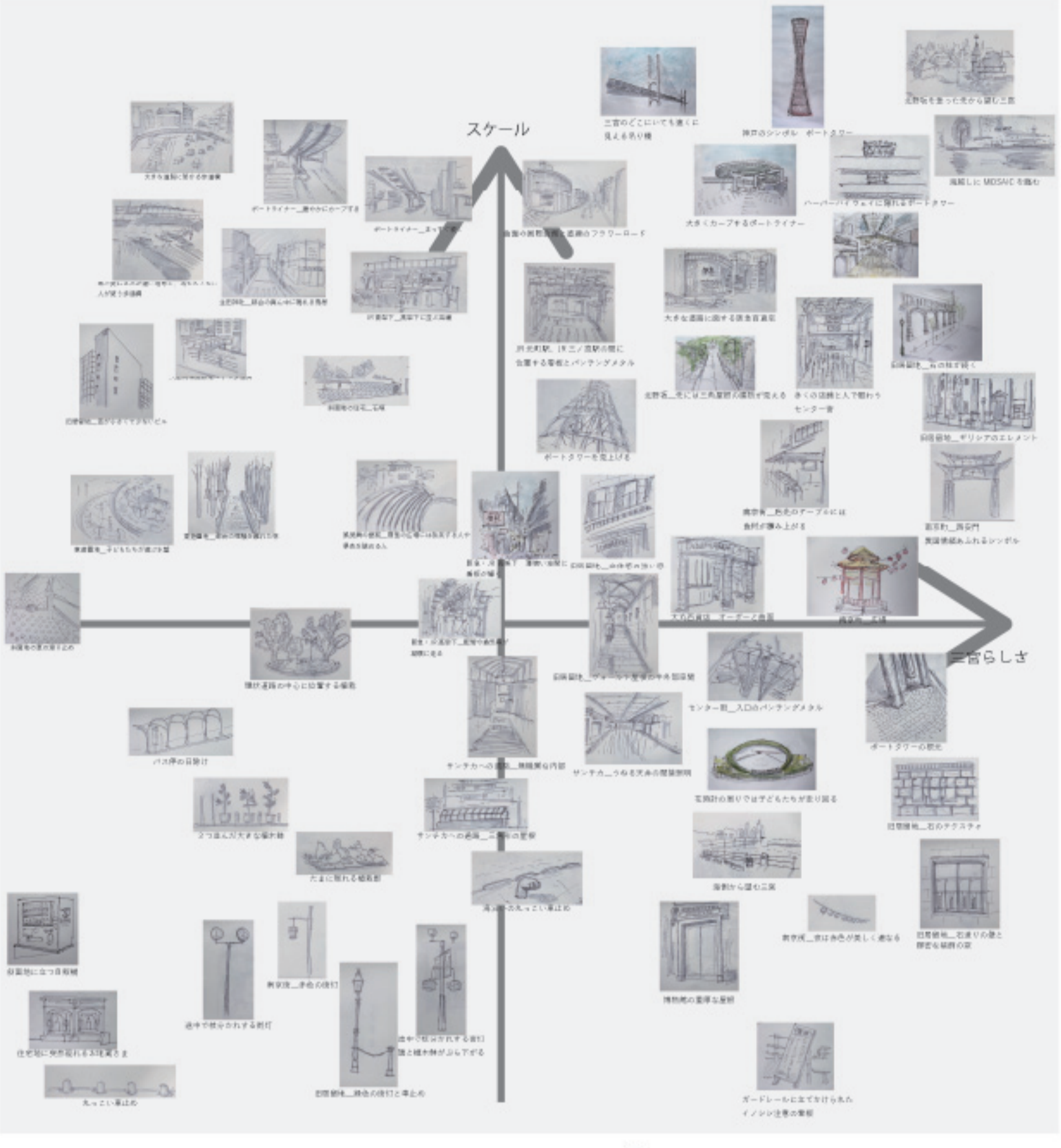
沈殿と蘇生のダイナミズム -倒錯する三宮の表層とアクティビティ-

宮本泰幸

スケッチを用いて収集した三宮の個性を、「らしさ」へと転移する。具体的な「個性」から、抽象的な「らしさ」への転移である。ふと上を見上げると、そこには反転した三宮が広がる。まるで空から街を見下ろすかのような体験を通し、人々の記憶に沈殿する三宮を呼び起こす。

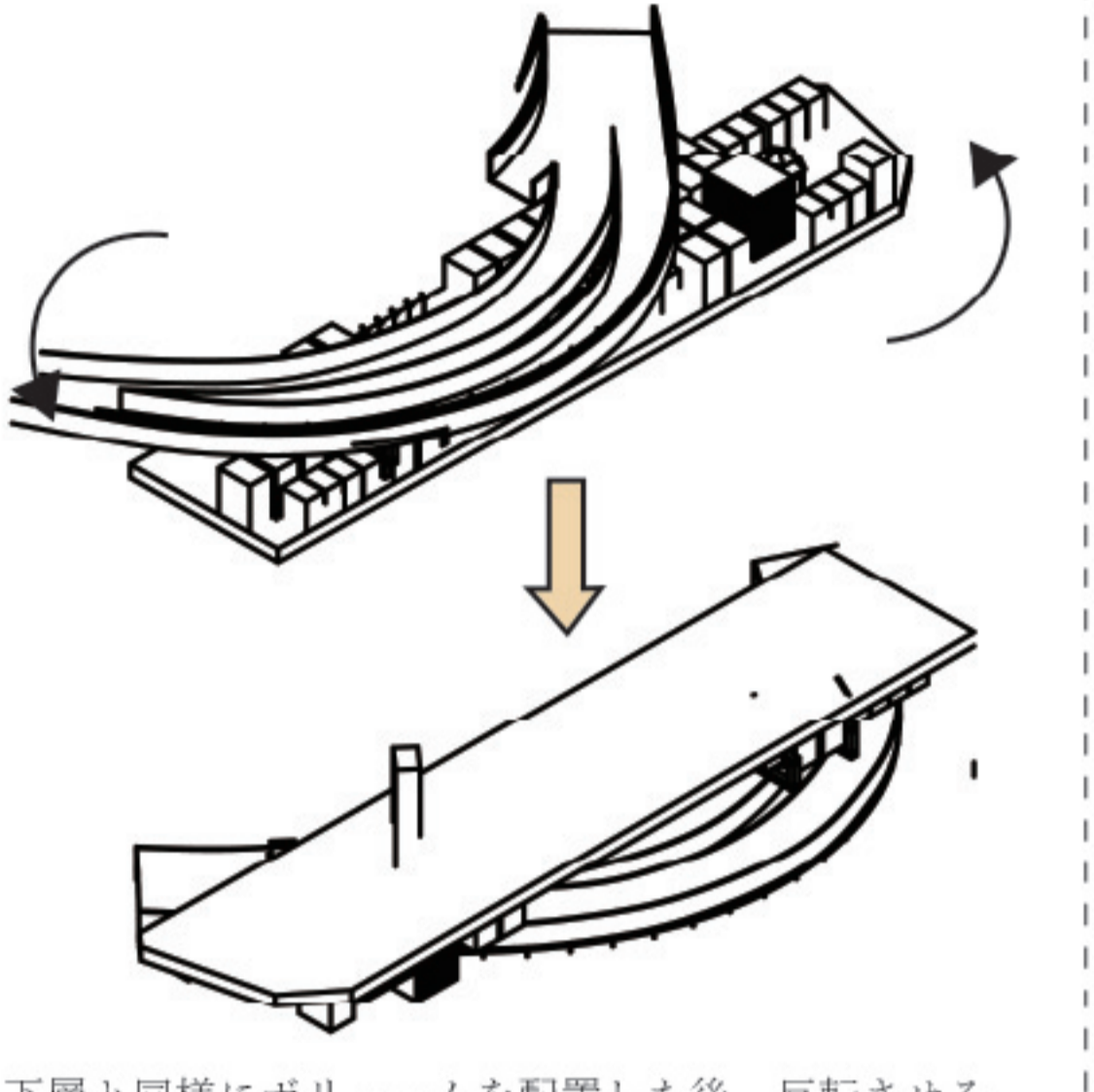


■転位ダイアグラム



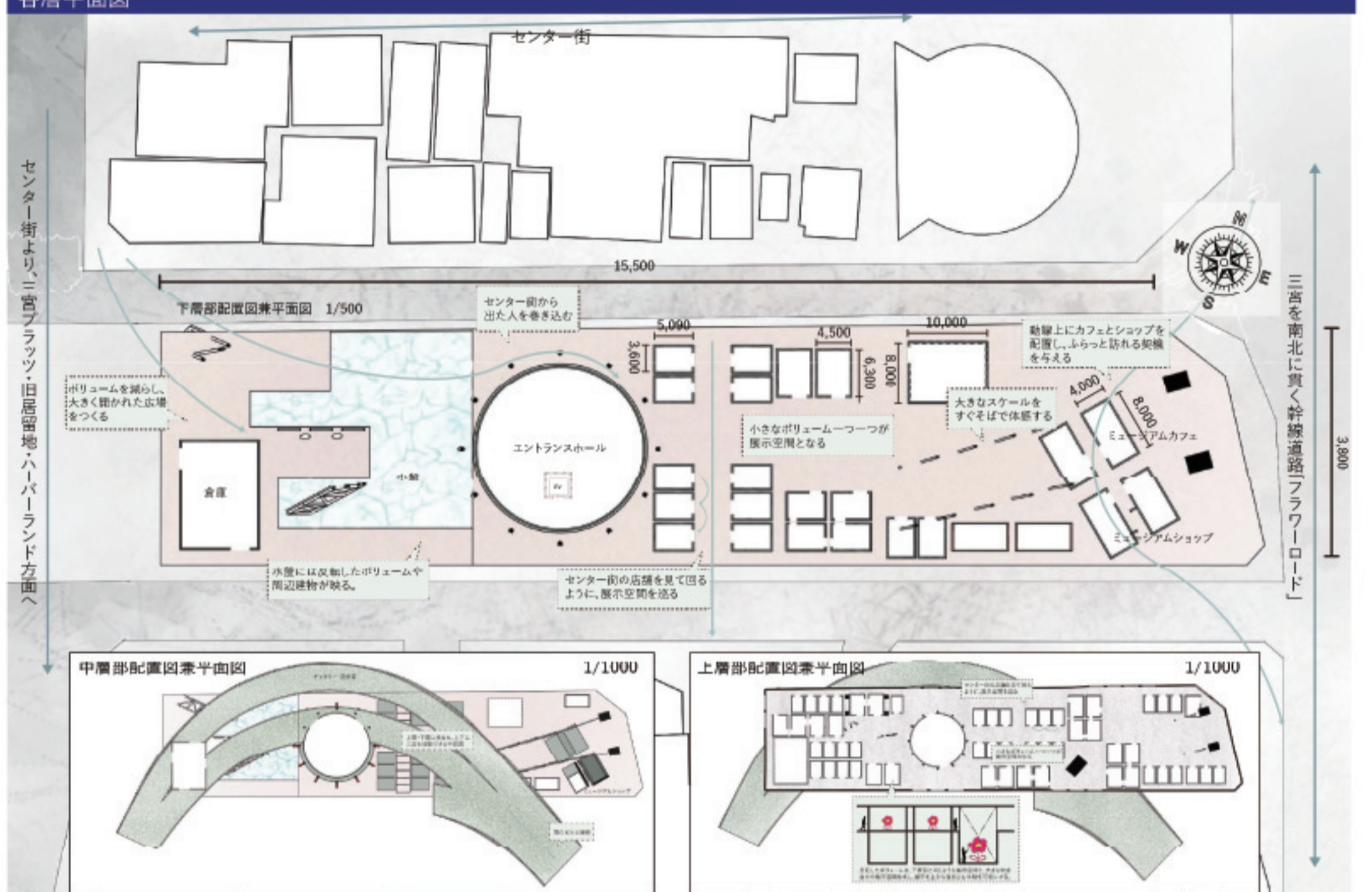
具体的な「個性」から、抽象的な「らしさ」へ。スケッチに現れたのは、各個性の印象的なエッセンスであり、それらは人々に沈殿した三宮の記憶といえる。ハーバーハイウェイのトラスのようなモノとしてのエレメントと、その場所に関するふるまい（ポーターを訪れる時、ビルや高架に阻まれて中々その全貌を表さない）に注目し、モデリング及び配置を行う。

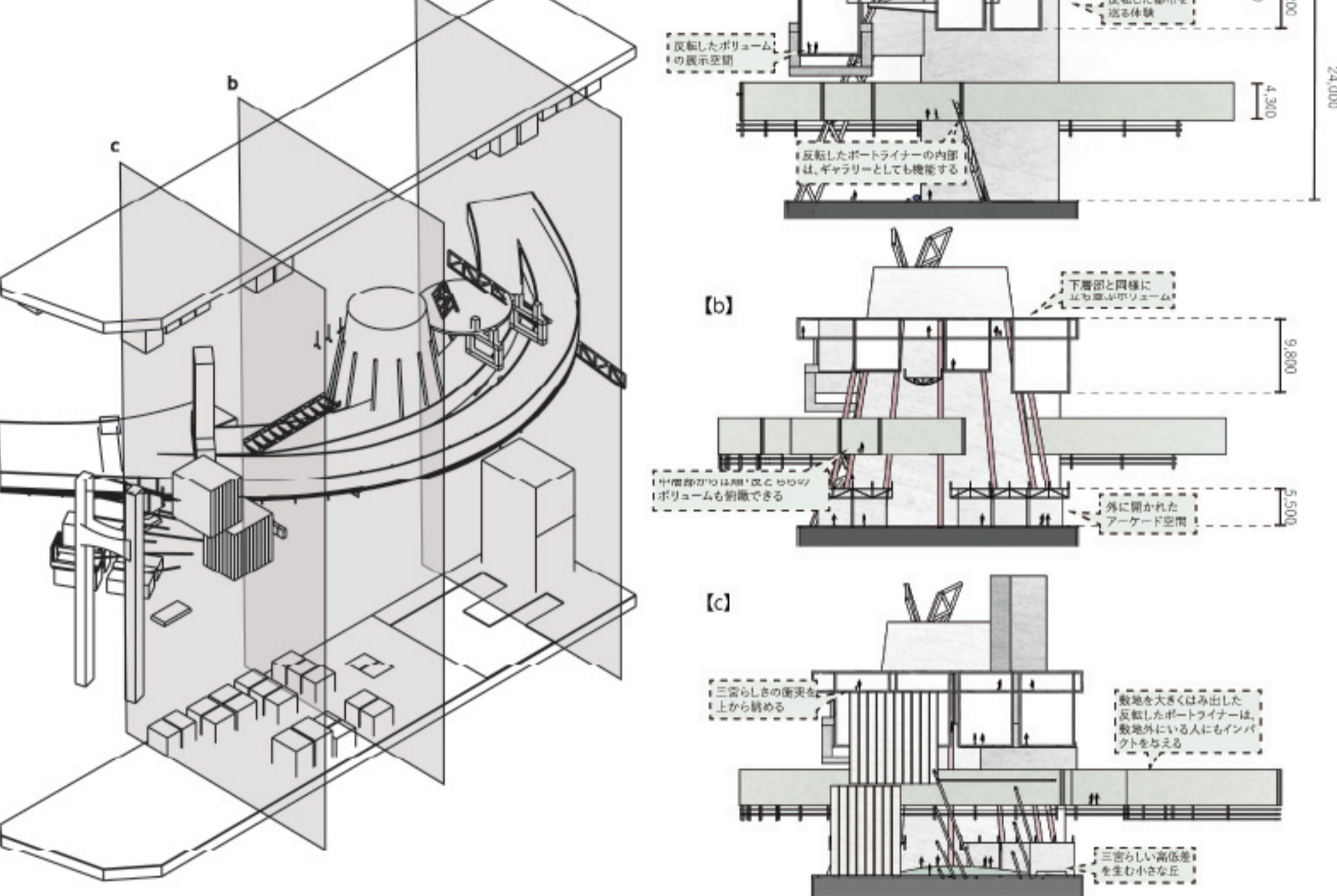
■反転ダイアグラム



下層と同様にボリュームを配置した後、反転させる。ふと上を見上げると、反転した三宮がある。そんな非日常的な体験を通して、今まで気付くことのなかった新しい三宮の姿に触れることができる。反転した上層部も含め、まるで三宮の街中に美術品が存在するかのよう、随所に美術品を展示する。この美術館で美術を鑑賞することは、同時に三宮の街を巡りながら美術品を鑑賞する体験にリンクする。

各層平面図



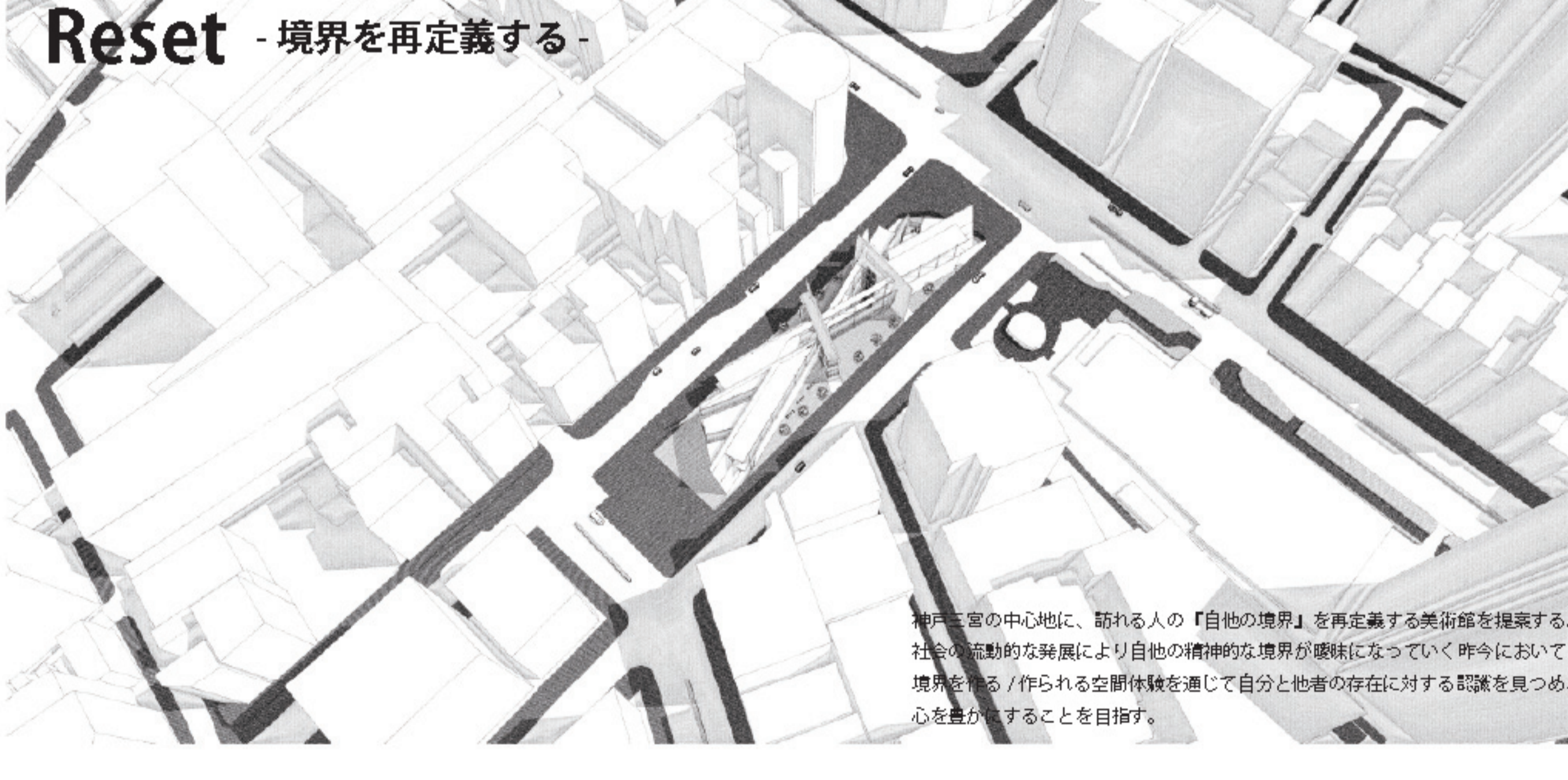


Reset - 場所を再定義する -

田中愛梨

神戸三宮の中心地に、訪れる人の『自他の境界』を再定義する美術館を提案する。社会の流動的な発展により自他の精神的境界が曖昧になっていく昨今において、教会を作る / 作られる空間体験を通じて自分と他者の存在に対する認識を見つめ、心を豊かにすることを目指す。

Reset - 境界を再定義する -




神戸三宮の中心地に、訪れる人の『自他の境界』を再定義する美術館を提案する。社会の流動的な発展により自他の精神的境界が曖昧になっていく昨今において、境界を作る / 作られる空間体験を通じて自分と他者の存在に対する認識を見つめ、心を豊かにすることを目指す。

Scene

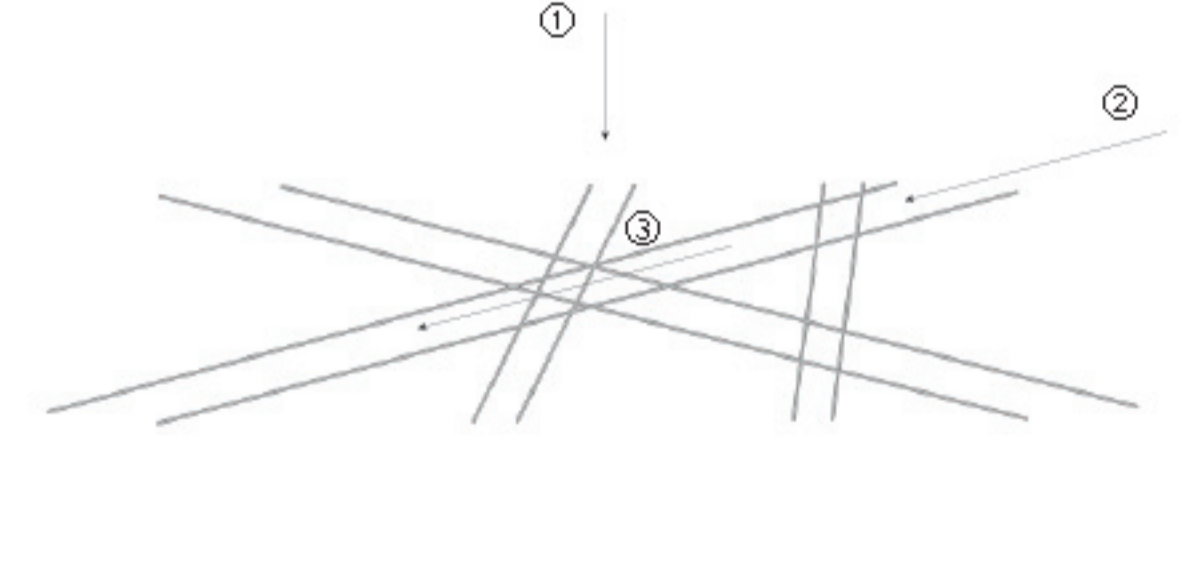
立面的体験

宙に浮かんだ空間・地に沈んだ空間を目指す
→ どうやってそこへ辿り着くのかなど、想像力を掻き立てる

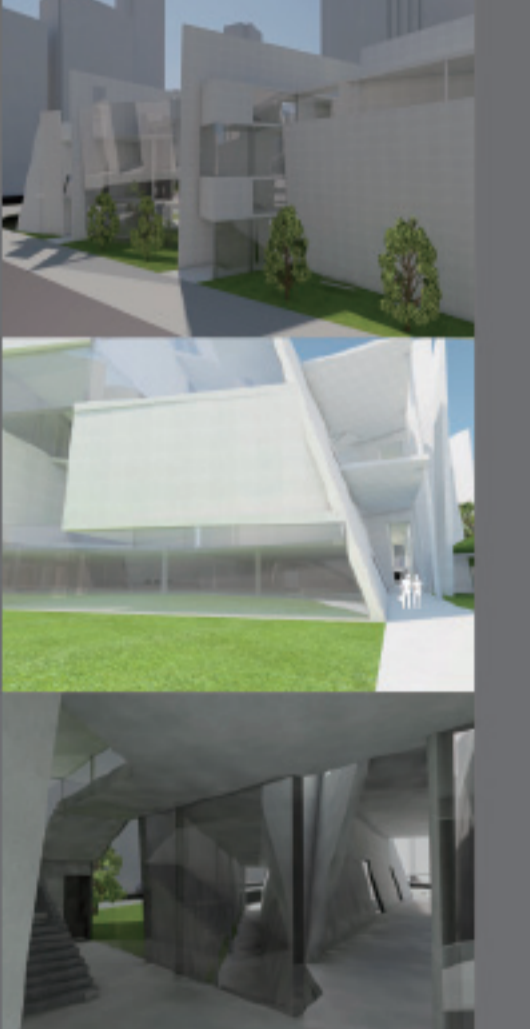


平面的体験

無自覚に境界を越えていたこと・越えたいことに気づく
→ 自分の周りに広がる境界に対して自覚的に選択していくことの重要性を認識する




①境界に興味を覚く：境界に隠された向こう側に興味を持つ
②境界に迎合する：目の前に見える境界に従って進む
③境界に気づく：他の境界が広がっていたことに気づく



Site

3つの境界性

今回の敷地には以下の3つの境界性がある。
①『山と海』：神戸の発展を象徴する六甲山と神戸港
②『新と旧』：開発が進む駅前と、維持保存されている旧居留地
③『直交街区と斜め街区』：②のカチとしての派生



Problem


自他境界の曖昧さの加速

誰もがインターネットに触れ、AI関連のサービスも身近になってきた世の中では、便利さが当たり前となり、どこまで自分の力で出来たことなのか、考える機会が減る。無意識のうちに自分の力が大きいと勘違いして、過度な他者批判に走り出すこと。逆に、よく見えてしまう他人の生活と自分を比較して過度に落ち込んでしまうこと。こういった自他の境界線が曖昧になる出来事は、より一層誰にでもあり得ることになってきている。

上記の問題意識に対して、敷地が3つの境界と関係が深いこと、美術は人間の感性性に働きかけることを活かして、訪れる人の自他の境界線をリセットする場を提案する。

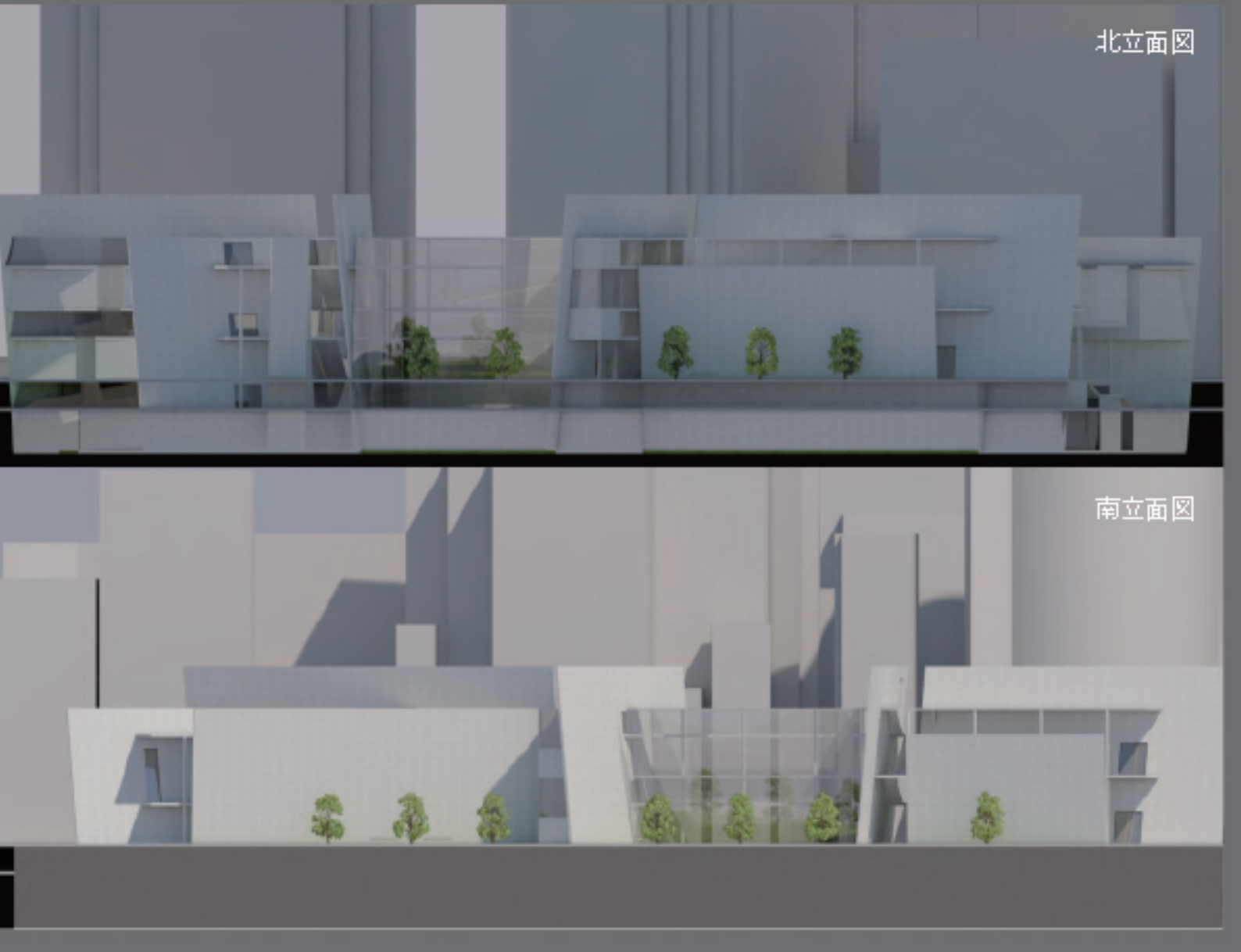
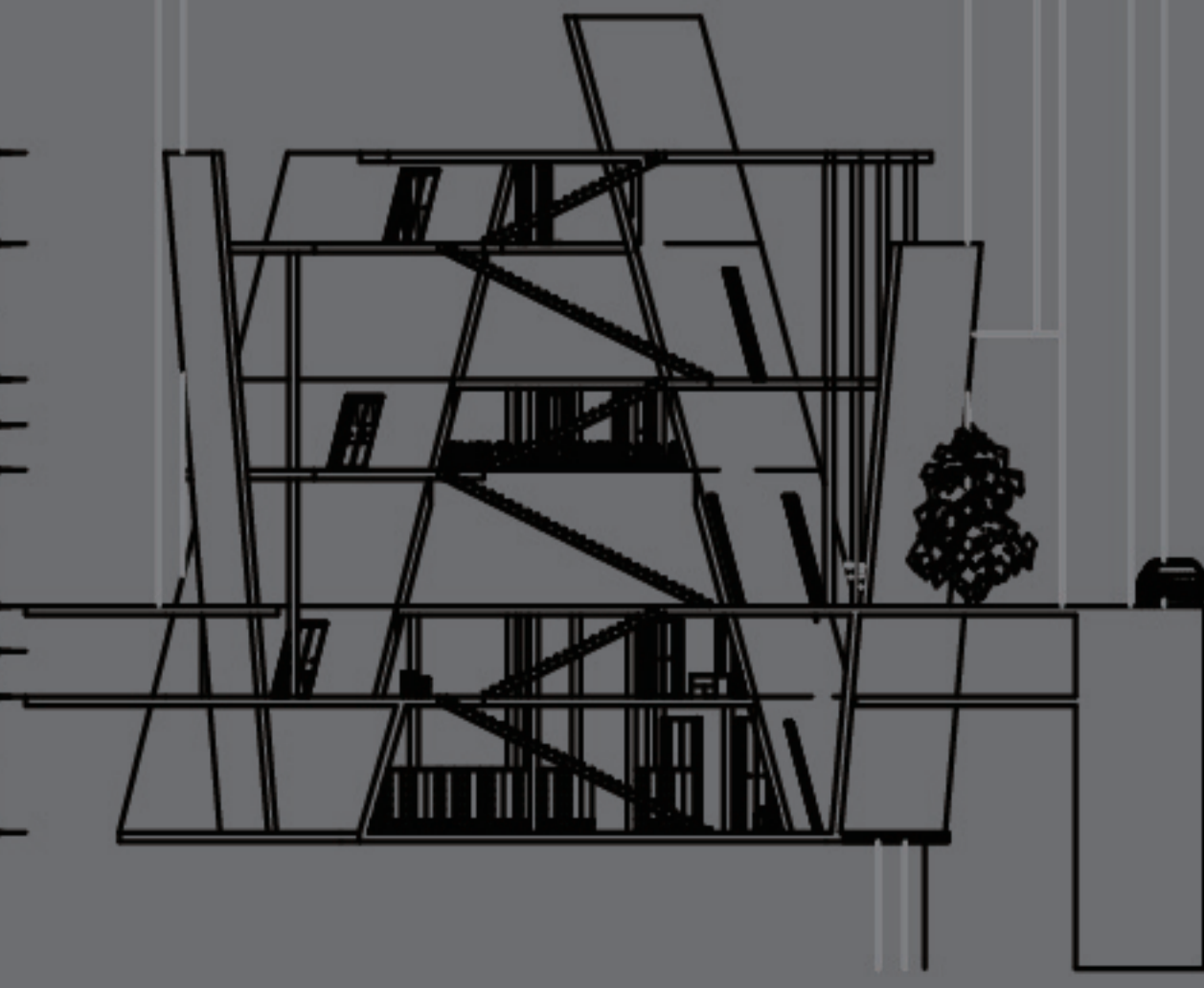
Diagram

敷地の持つ境界を「壁」として表出させ変化を加える



壁を壁として表出させる
境界に空間を置く
交わる部分を空ける
壁を傾かせる

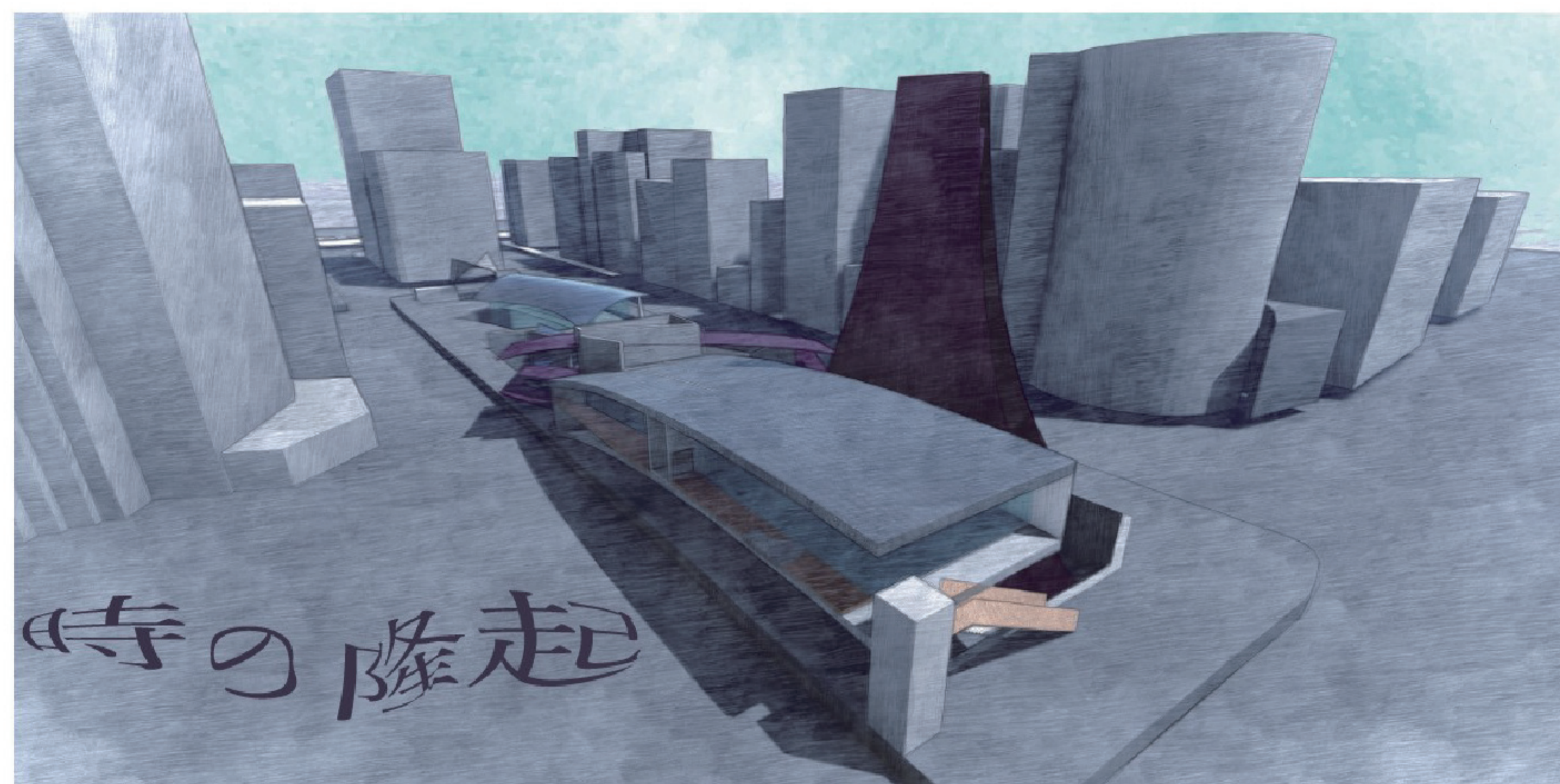
壁の傾きを変化させる
壁の高さや素材を変える
傾斜に合わせて床を振る
自ら境界を選択できかつ他から境界を作られているような動線を通らす

時の隆起

森田雅都

私たちは、本来流動的なものである時間を、それにより産み落とされる個体のコンテキストによって、近似して捉える。この、コンテキストを展示空間として実現する。このコンテキストの中で垣間見える三ノ宮の姿を、高反射率の彫刻作品で知られるアニッシュカプーア氏の作品が映し出す。



・ダイアグラム

軸を時間の流動と捉えて、うねりを付たせる

このうねりを、展示室以外の展示、地下へと続く動線とする。視線が定まっていく体験は、普段しない動的な物となる。

海風の軸
陸風の軸

これらの軸に、海風、陸風の軸を加える。朝方に吹く海風の軸は、未来の象徴として塔になり立ち上がる。

これらの軸線たちを、三宮の街のようにぶつける

軸によって生まれる間の空間が展示室となる。

＊国土地理院 地理院地図 (<https://fdg.gsi.go.jp/download/menu.php>) を加工して作成

・現状

生田神社の軸
三宮センター街
西園街道
旧居留地の軸
旧生田川 (アワーロード)

・設計趣旨

コンテキストとは何であるか。本来、流動的なものである時間を、それにより産み落とされる個体であるコンテキストによって、私たちが近似して捉える。この、コンテキストを展示空間として実現する。そして、コンテキストの中で垣間見える都市の姿を、高反射率の彫刻作品で知られるアニッシュカプーア氏の作品が映し出す。

コンテキストとは流動的な時間から、個体であるコンテキストが産み落とされる。この現象を建築として表現する。

アニッシュカプーア
さまざまな石、高彩度の顔料、反射率の高いステンレス鋼で作られた作品などで知られるイギリスの彫刻家

メインロビーと展示室4の間にある休憩スペース。他にも展示室1と展示室4の合間の空間など、軸のよつかり合う空間が展示室のみでなく、憩いやすい空間として現れる。

展示室1の上部の一つ、既存の道路に合わせて、分割される形で地上に現れる。この展示空間は誰でも自由に出入りできる。芸術を日常的に体験できる。

海風の軸に沿って立ち上がるコーラン鋼板の塔。朝方に海風が吹き抜けるこの塔からは、未来への息吹を感じる。すでに息吹が生じる。コーラン鋼板は、この建築、もしくは三ノ宮の未来を導き示される。

南面に向かって伸びる、曲線状の軒先。日影空間を生み出し、旧居留地と三宮の駅を行き来する人を美術館へと呼び込む。

展示室1の地下部分。上を見上げると、三宮の街、空が目に入る。限られた都市の姿がカプーアの作品に反射して作品として現れる。
作品1. Oriental Blue and Black Mist satin
作品2. Magenta to Clear
作品3. Apple Red and Lime mix to Purple Candy satin

塔の内部。コーラン鋼板に包まれた風の通る空間。都市に流れる空気を感じ。また、視線の先には軸の入り組む姿が見える。 作品名. Ishi's Light
＊各画像の人物写真は、Adobe Stock (veekici-stock.adobe.com/jp) より引用

A-A' 断面図 1/1000
西側立面図

三角形の、外部へと続く中庭空間。吹き抜けていき、地上空間と響く。三宮の街を俯瞰する非日常な体験が出来る。 作品名. Turning the World Upside Down II

ミナとマチ KOBE ~人と神戸を飾る美術館~

松嶋祐希

ミナとマチが豊かな神戸。それらを、かつて忌避された展示方法で飾ることで、マチを映し出しつつ、ミナがファサードになる。光や熱、風を最大限取り入れながら、館外では、飾られたミナにより神戸の活気を、館内では、飾られたマチにより神戸の魅力を感じられるよう設計。



・現状

搬出入室
Shop1
Shop2

・設計趣旨

ミナとマチが豊かな神戸。それらを、かつて忌避された展示方法で飾ることで、マチを映し出しつつ、ミナがファサードになる。光や熱、風を最大限取り入れながら、館外では、飾られたミナにより神戸の活気を、館内では、飾られたマチにより神戸の魅力を感じられるよう設計。

Gallery 5 +1500
Gallery 4 +1400
Storage +1200
Gallery 3 +1200
Gallery 2 +1400
Office +1200
Gallery 6 +1100

ミナとマチ KOBE
~人と神戸を飾る美術館~

Gallery 4
Gallery 5